

ひよし 日吉ダム最大流入時に約8割を貯留、ダム下流の河川水位を低減

淀川水系桂川の水資源機構日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、台風11号の降雨により、7月16日2時から18日12時までの総雨量が313mm（ダム流域平均雨量）を記録しました。

この降雨により、ダムへの最大流入量は、平成10年4月の管理開始以降第5番目となる毎秒773立方メートルとなりました。

この洪水に対して、日吉ダムでは防災操作を実施し、最大流入時に約8割（毎秒625立方メートル）の水をダムに貯留して、ダム下流の河川水位の低減に努めました。

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を、最大約0.8メートル低減したものと推定され、はん濫危険水位（4.50m）を上回ることを回避しました。

※防災操作：大雨により、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的にため込んで、ダムから下流に流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作。

※今回の発表は速報値であり、今後の調査により数値等が変わることがあります。

平成27年7月19日（6時時点）

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所

発表記者クラブ

京都府政記者室
南丹市政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人 水資源機構 日吉ダム管理所 所長代理 佐々木
住 所：京都府南丹市日吉町中神子ヶ谷68
電 話：（0771）72-0171（代表）

ひよし 日吉ダム最大流入時に約8割を貯留、ダム下流の河川水位を低減

各地に被害をもたらした台風11号により、淀川水系桂川の日吉ダム（南丹市日吉町）流域では、7月17日15時から16時までの1時間の雨量が最大16mmを記録し、降り始めの7月16日2時から18日12時までの総雨量が313mm（ダム流域平均雨量）に達しました。

この降雨により、ダム流入量が増加し、17日14時43分には洪水量（毎秒150立方メートル）に達したため、防災操作を開始しました。

18日3時28分には、ダム流入量が最大（毎秒773立方メートル）となり、同時刻におけるダム流下量は毎秒148立方メートルであり、流入量の約8割（毎秒625立方メートル）をダムに貯留しました。この流入量は、平成10年4月の管理開始以降において第5番目の流入量となりました。

日吉ダム防災操作の概要

	流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム流下量	同時刻におけるダム貯留量
日吉ダム	313mm	平成27年7月18日 3時28分	毎秒773m ³	毎秒148m ³	毎秒625m ³

今回の防災操作により、日吉ダムが無い場合と比べ、ダム下流の保津橋地点（かめおかしほうちょうしもなかしま亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を、最大約0.8m低減したものと推定され、はん濫危険水位（4.50m）を上回ることを回避しました。

なお、同地点の最高水位は4.01mとなり、避難判断水位（4.00m）を僅かに超える程度で治まりました。

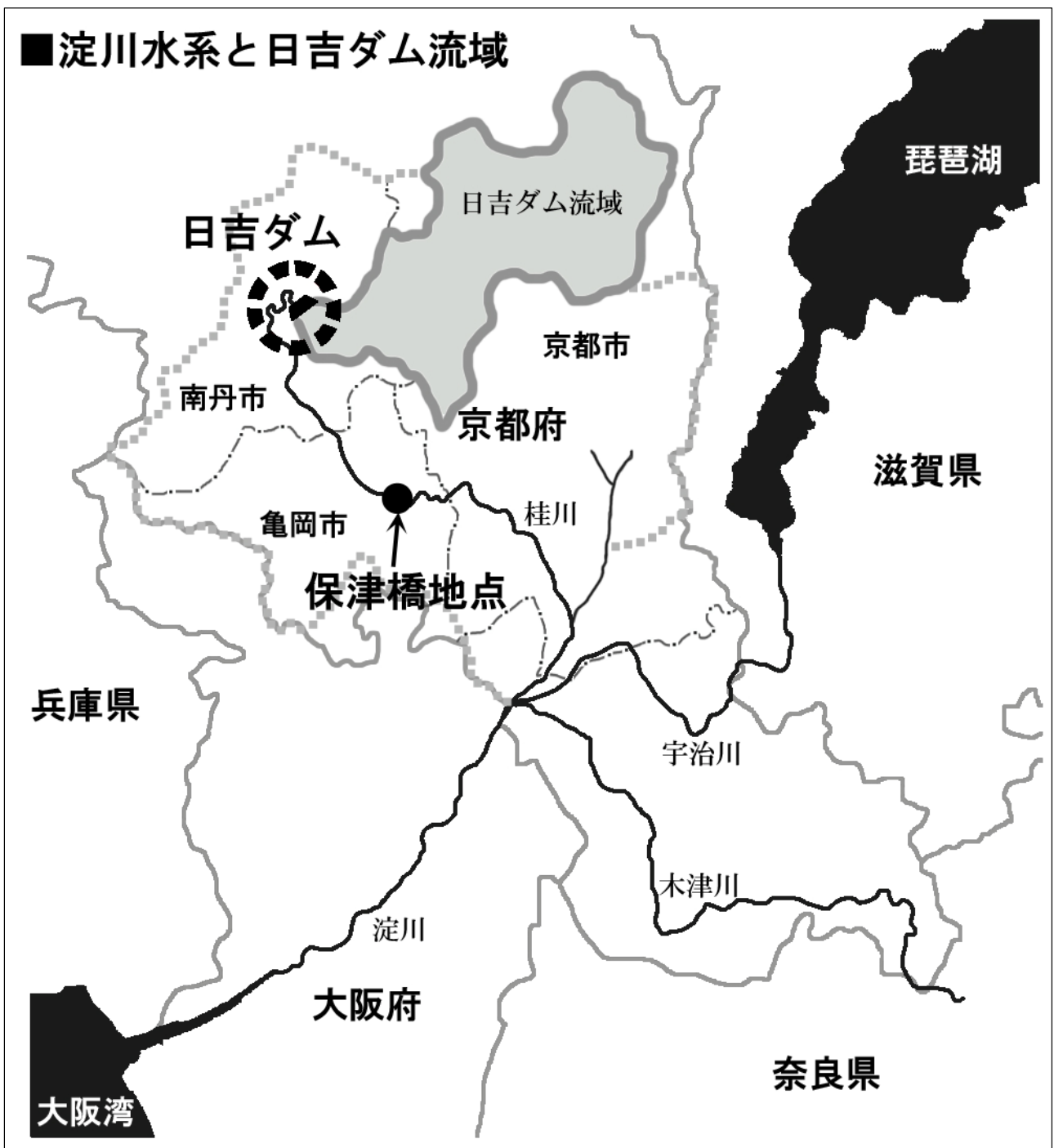
保津橋地点の水位低減効果

保津橋地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における保津橋地点の河川水位	ダムがなかった場合の同地点の最高水位	水位低減効果
平成27年7月18日 2時30分	4.01m	4.77m	0.76m

河川水位は、高い状態が続いています。十分ご注意ください。

日吉ダムでは、今後もダムの効果が最大限に発現できるよう努めて参ります。

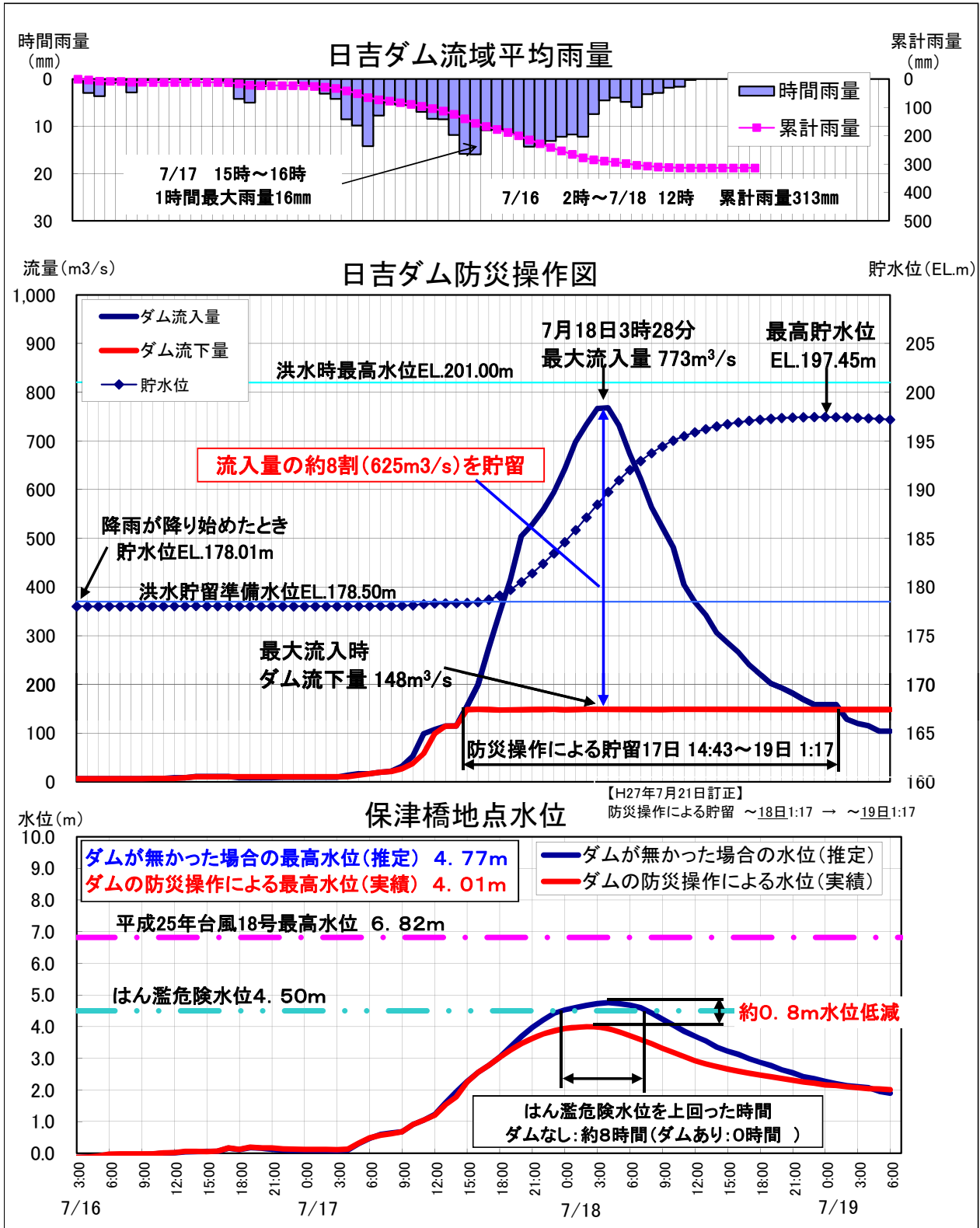
位置図



台風11号の降雨に伴う日吉ダム防災操作について

資料2

・日吉ダム最大流入時に約8割を貯留、ダム下流の河川水位を低減



管理開始(平成10年4月)以降の主な出水の記録

順位	出水名	総雨量 [mm]	最大流入量 [m ³ /s]	最大流入時のダム流下量 [m ³ /s]	最大流入時の貯留量 [m ³ /s]
1	平成25年 9月 台風18号	345	1,694	148	1,546
2	平成26年 8月 前線	214	1,291	42	1,249
3	平成26年 8月 台風11号	298	913	14	899
5	平成27年 7月 台風11号	313	773	148	625

※ 管理開始(平成10年4月)以降の出水で、最大流入量が大きい方から3番目までと今回を記載しています。

※ 数値等は速報値であり、今後の精査により変わることがあります。

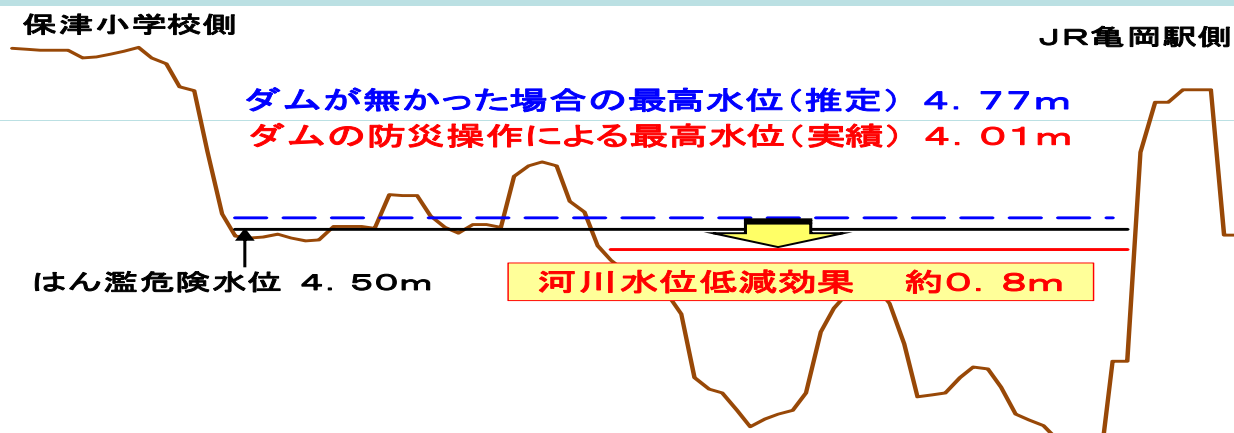
日吉ダム最大流入時に約8割を貯留、ダム下流の河川水位を低減

台風11号の降雨により桂川の水量が増大し、日吉ダム管理開始（平成10年4月）以降で第5番目となるダム流入量（毎秒773立方メートル）を記録しました。日吉ダムでは、最大流入時に約8割の水をダムに貯留し、京セラドーム大阪約28杯分（3,302万立方メートル）に相当する水をダムに貯め込みました。今回の防災操作により、ダム下流の保津橋地点（亀岡市保津町下中島地先）の河川水位を、最大約0.8メートル低減したものと推定され、はん濫危険水位（4.50m）を上回ることを回避することができました。なお、同地点の最高水位は4.01mとなり、避難判断水位（4.00m）を僅かに超える程度で治まりました。

最大流入時に約8割の水をダムに貯留し、京セラドーム大阪[※]約28杯分に相当する水をダムに貯め込み、ダム下流の河川水位の低減に努めました。（※京セラドーム大阪の容量を120万 m^3 として算出）



保津橋地点（保津川下り乗船場付近）での水位低減効果



※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。